

第2回日本平公園基本計画改定専門委員会 議事録

1 日 時 令和6年9月12日(木)午後2時00分～午後4時00分

2 場 所 静岡市役所 17階会議室

3 出席者 <委員>

五十嵐誠委員長、池谷則義委員、石上順也委員、石山千代委員、寒竹伸一委員、
平松玲治委員、船戸修一委員、森川高行委員

<事務局>

杉村緑化政策担当部長、杉山公園建設管理課長、鈴木日本平公園建設室長、
吉田副主幹、鍋田主任技師、滝澤技師、大滝会計年度任用職員

4 傍聴人 5人

5 議 事 (1)開会

(2)議事

- ・第1回改定専門委員会の主な指摘事項について
- ・日本平公園の概況と現基本計画の取り組みについて
- ・基本計画改定の方向性の検討について
- ・基本計画改定にあたっての重点検討項目について

(3)閉会挨拶(静岡市緑化政策担当部長)

(4)閉会

6 会議内容

(1)開会(省略)

(2)議事

<五十嵐委員長>

それでは、議題にあります、第1回改定専門委員会の主な指摘事項並びに日本平公園の概況と基本計画の取り組みについて、事務局の方から説明をお願いします。

<事務局説明①:第1回改定専門委員会の主な指摘事項について、
日本平公園の概況と現基本計画の取り組みについて>

<五十嵐委員長>

第1回の委員会の後に、委員の皆様から事務局の方に寄せられたご意見等が、4ページにまとめられてございます。現状を絡めて説明がありましたが、皆様、ご質問等ございましたらどうぞ。

<森川委員>

交通機関の分担率、また駐車場の利用について調べていただきたいのご質問をし、資料の3にまとめてあると思います。小型車96.1%、大型車3.9%とありますが、通常交通機関分担

率という、いわゆるマイカーが何%、公共交通機関が何%、今回の場合、ロープウェイもありますのでロープウェイが何%とか、そういうことを伺いたいです。小型車、大型車もちろん重要ですが、公共交通と私的な交通の割合が分からないということです。もちろん公共交通は、ロープウェイを除くとバスですので、大型車という中に入っているのかもしれませんが、この中の多くは観光バス、貸切バスもあると思います。また、台数が分かれば、バスの利用率が低い場合はバスが走っていてもお客さんが少ない状況ということが分かります。乗合バスにお客さんがたくさん乗っているのかということを知りたいのです。そこは分からないでしょうか。

<事務局>

説明資料の8ページをご覧ください。公共交通の「しずてつジャストライン」が1日に9本運行しています。こちらは、公共交通として唯一のバスとなっております。ロープウェイに関しては、参考資料3の10ページに月別の人数を記載しています。直接的な分担率とまではいかないので、このように含めて、次回以降分かるような分担率をお示しできればと思います。

<森川委員>

はい。では、よろしくお願いいたします。

<五十嵐委員長>

それでは、これを前段として、本日のメインテーマでございます議題(3)、(4)基本計画改定の方性の検討について、基本計画改定にあたっての重点検討項目について、事務局からご説明いただき、ご意見等をいただきたいと思います。では、説明をお願いします。

<事務局説明②：基本計画の改定の方性の検討について、 基本計画改定にあたっての重点検討項目について>

<五十嵐委員長>

ありがとうございました。少し付け加えさせていただきたいのですが、以前日本平にはテレビ塔が4本だったと思いますが建っていて、10年以上かかってやっと1本化する目途がつき、今、夢テラスの中に立っています。平成4年に基本計画がまとまったところから、本格的に日本平公園の整備に取り組まれたと思います。

それでは、事務局の方から(3)基本計画改定の方性の検討について、(4)基本計画改定にあたっての重点検討項目について説明がありました。これについて、まだ具体的な施設などを意見として出せるような状況ではないかもしれませんが、これから具体の検討に入るにあたっての検討項目などについて、広い視点からご意見またはご質問がありましたらいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

<石山委員>

充実した資料とご説明ありがとうございました。何点か気になるところがあったのですが、第1に、主なターゲット層の想定についてです。重点ターゲットという割にはたくさんいるというのも気になるのですが、それに関わらず最も大事な市民が抜けています。現状でも市民が非常に重要になっているというデータがありました。市民が1回当たりの来訪で使う消費額は少ない

と思うのですが、人生の中で色々な節目とか、色々な目的で、ライフステージごとに何回も日本平にいらしゃっているのではないかと思います。私は静岡市民ではないのですが、これまで色々な方とお話させていただき、それをすごく感じています。そういった意味で日本平というのは、市民にとって非常に大切な場所だと思います。この資料内では「持続可能な観光」という言葉が何度も出てきていて、最近色々なところでも議論されることがあり、私もそこに参加させていただいていますが、まずは近い人に愛される場所であることが重要と言われています。一見地味なようですが、日本平もそれが重要だと思います。市として重視している消費額や宿泊客数に一見結び付かないように見えると思うのですが、市民の方々の繋がりで色々な人が連なってくるきっかけになりますので、市民が1回あたりに落とす金額は少なくとも、長い目で見ると色々なお客さんを連れてきてくださるという意味で消費額の観点からも重要という説明もできますので、しっかり位置付けたいなと思いました。

もう1点が、「富士山プラス」という言葉が出てきましたが、日本平からのランドスケープは本当に素晴らしいなと行くたびに思っていて、今日も行かせて頂いて、富士山は見えませんでした。素晴らしいと改めて思っていました。世界自然遺産になっている富士山と三保松原が重要な構成要素であることは誰もが賛成すると思うのですが、やっぱり清水港の産業の活力を感じる景観ですとか、すぐそばにこれだけの市街地がある中に大海原と富士山だけでない美しい山並みが見えて、360度どこを見ても美しく、「風景美術館」って本当に素晴らしいコンセプトだなと私は思います。富士山があることが前提というのはいいことなのですが、実際に富士山が見える日は年間120日で、3分の1以下ということなので、「富士山プラス」と言ってしまうのは、日本平らしさを考えても逆にちょっと残念な感じになってしまわないのかなというのが気になりました。

<事務局>

「富士山プラス」に関しては、最初、四周全部を見渡す「四周眺望プラス」と書いていたのですが、少しインパクトが弱いなと思い敢えて「富士山」だけに脚光浴びさせてしまいました。しかし、石山委員のおっしゃる通りで、あそこから見えるのは富士山だけではないというのは当初から我々も考えていたことで、その辺は少し検討の余地があるかなと思っています。

あと市民の利用に関しては、そこも、まさにその通りです。今回主なターゲット層の想定として入れた資料が観光基本計画で書かれたものをそのまま入れてあるので、それプラス公園としてどう考えるのかというのは、検討する必要があると考えております。

<五十嵐委員長>

付け加えさせてもらおうと、この計画を始めた頃、静岡では、意外と観光地に自信を持っていなかったと思います。例えば、登呂遺跡は弥生の我国最初の遺跡だと教科書で全国で子ども時代から教わっていましたが、三保の松原も景観もいいし、色々な文学作品などに結びついて相当有名でした。それでもなかなか静岡市に観光客が来ないと弱気であったと思います。それで、先程言いましたように、テレビ塔が1本化され、平坦地が生かせる、これはなんとか静岡を代表する一つの観光拠点にしていくなさではないかと。静岡市民にとって、日本観光地百選で一位になったことがある日本平は、静岡のいわゆるおもてなしの場、極端に言うと迎賓館にしてもいいのではないかと期待も出てきました。

<平松委員>

先程、石山委員もおっしゃったターゲットについて私も同感でして、特に公園の場合は、市民は絶対に大事だなと思います。資料の35ページで、観光と市民の二軸を想定はしていますが、はっきり市民をターゲットにしていると言っていないのはなぜなのかと思いました。まさに市民は当然のターゲット層になっているだろうなと思ったのが一つです。

もう一つが、もっと遠い話でインバウンドの想定をした方がいいのではないかと思います。前回の視察の際に、ちょうどクルーズ船が入って来たのも見えましたし、ターゲットとしても良いのではないかと思います。

あともう一つが、特に活動メニューなどの話で、色々と楽しそうなイベントや景観花修景などを検討されていて素晴らしいなと思いました。私もまさにこういう事を色々な国営公園や大きな公園の中で展開しているのですが、こういった活動メニューを実現するためには、公園のマネジメントがすごく大事になります。その管理については、維持管理だけではなく、運営をどうしていくのか、その公園をどうしていくのか、その活動やイベント、花の景観を作っていくという事に関してもどうしていくのかという事を決めて、それを実現していく主体となる者、それが都市公園の場合は、自治体さんが直接やる場合もありますし、指定管理者という形で民間が入ったり、もしくは公園協会さんがやったりとかということがあるかと思うのですが、そういった管理が今の日本平公園の場合には、誰が主体になっているのかなと思いました。そういう今の体制から今回提案されている活動メニューの実現が可能なのかどうかということです。すごく夢のあるメニューがあって楽しそうだなと思うのですが、誰がやるのだろうかというのが気になったので、そこを質問したいです。

<五十嵐委員長>

お二方から市民を重要なターゲットにしないのは問題ではないかのご意見が出ました。また、これから色々な施設や催しを考えていく時に、その運営管理をどういう体制でやるのか、今、日本平公園に夢テラスがあって人気が出ていますが、その管理の実態はどうなっているのか、この二点について事務局からお願いします。

<事務局>

一点目、まずインバウンドについてですが、清水港にクルーズ船が多く停泊するようになってきております。停泊時間が大体3時間ぐらいで、清水港にいらした外国人旅行客が行動する範囲というのが、ちょうど日本平に来るくらいの距離感、過ごして頂くにはちょうど良いと聞いております。ということで、やはり日本平公園にお越しただいて、そこで何らかの体験等をして過ごしていただくということで、まず清水港にいらっしゃる外国人旅行客は当然ターゲットに入れております。その他、東京などに到着して、そこから色々行かれる外国人旅行客にどのようにして日本平に寄っていただくかというのは、今後考えていく必要があると思います。これらについては、公園部局が考えるというよりは、観光部局で考えて観光政策として方向性が示された中で、それでは日本平公園はどういうところを狙っていくのかと考えていくことになるのかと思っています。

管理運営につきましては、資料の14、15ページの計画平面図をご覧頂くと、今のところ、公園の中央あたりのセンター広場に収益施設を入れることになっています。この収益施設単体、あるいはこの建物を含めた芝生の一定の面積に対して、まずはPFI、最低でも指定管理と現計画画では考えております。現状の山頂部分の夢テラスにつきましては、静岡県が管理している

八角堂には指定管理を入れています。大阪のあべのハルカスの管理をされているアクティオさんという会社が指定管理者になっています。また、日本平久能山観光協会さんにも入っていたいて、一緒にやったださっているという状況です。今後、日本平公園がグランドオープンする時には当然、観光協会さんやアクティオさんなど、現在携わっている皆さんと一緒に指定管理やPFIについて考えていきたいなと思っています。

<五十嵐委員長>

もう一つ大事なところで市民がターゲットになっていないのではないかと、についてお願いします。

<事務局>

ウェルビーイングについて先程の説明にもありましたように、当然、市民の皆さんをないがしろにしているわけではないのですが、どうしても観光消費額とか宿泊者の増というところに物差しがいつてしまっているため、書き方としてそのようになってしまっています。先程石山委員から、市民生活や地域に根差した文化がないと長続きしないということもお聞かせいただきましたので、そういうところはしっかりと踏まえていかなければいけないと思っています。

<池谷委員>

私の職場は日本平ホテルでございますので、観光という切り口で前もって資料を拝見させていただく中で、やはり県内外のお客様に日本平で長い時間お楽しみいただけるという観光的な要素を考えますと、私もお邪魔したことがあるのですが、資料8の富士サクラ等に非常に多くのお客様がお見えになっていると実感しております。当然景観も大事ですが、やはりこういった県内外のお客様がぜひ見てみたい、こういったこともキラーコンテンツになっていくのかなと感じました。

それと石山委員がおっしゃっていたような市民のための公園という側面も当然重要だと思います。ただ、県内外のお客様をぜひ日本平へお連れして良さを見ていただきたいという方も非常に多いです。「静岡にもこういった良いところがあるんだよ。」というお客様の感想を私も実感しております。そのような中で、市民がおくつろぎいただける、お子様を連れて楽しめるような空間、例えば遊具だとかベンチなど、家族が小さい子供を連れて楽しめるような安全で安心できる遊具のエリアがあったりすると、市民の方々にご利用いただきやすい公園になってくるのかなと思いました。

もう一点、山頂部の話でなくて申し訳ないのですが、日本平夜市を第4土曜日に開催しており、多い時には、8,000人くらいお越しいただいています。その中でパークウェイに関しては、コーナーやカーブが多いものですから、夜間走ると非常に怖いというお客様のご意見をいただきます。清水側に関しては、ある程度街灯があるのですが、静岡側に関しては街灯がありません。初めて来たお客様は、本当にこの上にそういったところがあるのか、このまま進んで良いのかと怖いと思います。山頂部のお話ではないのですが、安心安全に山頂に誘導するためのインフラといったものも重要じゃないかなと考えます。

<五十嵐委員長>

滞在時間を長くしたいということですが、滞在時間の現状は把握していますか。

<事務局>

資料4のWEBアンケートの問5に「日本平山頂エリアでの平均的な滞在時間を教えてください。」という設問がございます。これを見ますと「30分から1時間」、「1時間から2時間」というのが全体の7割くらいですので、現状ではこの間ぐらいが一番多いのではないかと考えています。

また、駐車場の調査でも、駐車場によって多少違いますが、大体1時間くらいというのが今のところの状況です。

<五十嵐委員長>

それも今後検討する必要があるのではないかと思います。それとパークウェイについてご意見が出ました。これもこれから話ですが、「風景美術館＝日本平」ということから考えたら、これこそ「風景美術館＝日本平」のパークウェイだと言えるような個性を新しく提示できたら非常に面白くなると思います。

<森川委員>

交通についてですが、ほとんどの方は車または観光バスで来られるということを想定されていると思いますが、先程私の質問に対して、「しずてつジャストライン」が1日に9本、それも静岡側からだけということで、あまりにも公共交通でのアクセスが弱いなと感じました。先程のWEBアンケート調査の問9を見ても、やはり要望として一番多いのは、観光地を周遊する巡回バスと主要駅からのシャトルバスです。今のバス事業は大変で採算が取れる路線はほとんどないですが、やはり市民、それからインバウンドを含めてもう少し活性化するには、公共交通をもう少し充実した方が良いでしょうと思います。静岡市も自動運転に積極的に取り組んでおり、今すぐには難しいですが、もう少ししたら無人運転化に近づいていきますので、運営コストもかなり安くなるということもあります。特に、山頂付近での消費額を増やすためには、飲食を増やした方が良く、特にお酒を飲むと一気に消費量が増えるのですが、車で来たドライバーさんは飲めないの、特に清水側に公共交通があったら良いなと思います。例えば、静岡側から公共交通で来て、山頂でゆっくりして清水側に行き、清水でお寿司食べて帰るとか、何か周遊できるような公共交通があると良いなと思います。

公共交通だけではなく、最近流行っているのに交通手段も兼ねてかつ楽しめる自転車があります。琵琶湖1周やしまなみ海道、近いところだと浜名湖1周など、外国人も含めてものすごく人気ですし、ここ（日本平）も、山なので少しハードですが、最近、電動アシスト自転車もありますし、静岡から途中日本平へ寄って清水に抜けるようなコースをつくって、レンタサイクルを充実させれば、外国人客も含めて結構な人気になるのではないかなと思います。先程のサイクルレースでしたか、そのためには車がビュンビュン走る今のパークウェイはちょっと怖いので、旧道を使った自転車専用道みたいなのができれば、少々ハードでもマニアの方とかは喜んで来ると思います。そういう走れる空間さえあれば結構な自転車の名所になるのではないかなと思いました。

それから、先程石山委員のお話にもありましたが「富士山プラス」が私もとても気になって、これは考え直した方がいいかなと思います。日本平の資源をあまりにも過小に見せてしまうのではないかなと思いました。

<事務局>

交通に関して今ご指摘頂いたところは我々も非常に大切だと思っていますので、今後、

課題、提案なりという形でお示ししたいと思います。

「富士山プラス」に関しては、先程もお話したとおりで、過小評価というのもその通りかもしれませんが、再検討していきたいと思っております。

<五十嵐委員長>

現況の公共交通が、バスが静岡側からの1日9便のみという点については、どうしてそれで止まってしまっているのか、その辺も調べておいた方が良いのではないのでしょうか。

<事務局>

静岡鉄道さんも運転手不足や採算が取れない等もあり、なかなか便数が増やせないというところはあると思います。

<五十嵐委員長>

その辺も含めて検討していく必要があると思います。

<寒竹委員>

第1回目の委員会を欠席しましたので、感想のようになりますが、具体的な場所が、38, 39ページのように縦長で高低差が45mある。ここをどう上手くデザインしていくかというのも大きいと思います。そうすると、一つ頭に浮かぶのが修学院離宮の下御茶屋、上御茶屋、中御茶屋。下御茶屋であれば、ここ（日本平）で言えば大きな芝生広場が池になっていて、何かそういうテーマがあった方がいいのかなと思います。他には、イタリアのティボリ（Tivoli）のハドリアヌス帝（Publius Aelius Trajanus Hadrianus）のヴィッラ（ヴィッラ・アドリアーナ：Villa Adriana）というのがありますが、公園以前の庭園といいますが、それも山岳斜面地をうまく利用した庭園です。スケールがちょっと違ってくるかもしれませんが、修学院離宮というのは、3つあって、それぞれが程度独立していて3つが上手く繋がっているデザイン手法です。ハドリアヌスのヴィッラは、色々な高低差がある所に、空間に独立性を持ってデザインしているという手法を、古代ローマ時代なんですけど使っている。また、ルネサンス以後のイタリア庭園は、やはり斜面地をテラス状に作り、ちょっとした郊外、街並みを一望するような場所を選んで作っているの、そういうのを参考にされるといいのかなと思いました。

もう一つ、31ページですが、私は生まれが福岡、ここ静岡の大学でお世話になっているのですが、地名で「日本」を付けているのは、「日本平」の他に「日本アルプス」くらいしかないのではないかと思います。なおかつ「日本」というのは、「大和」という意味であって、すごく神話を感じる。私たちよそ者から見れば、あそこ（日本平）は神話の山、神話平です。ですから、例えばディズニーランドはミッキーマウスとミニーマウスがテーマで、ダックスフンドとか色々なキャラクターが出てきます。ここ（日本平）は神話だから、ヤマトタケルが主役になって、神話の色々なキャラクターがいっぱいいますよね。このようなことも頭に入れて、ディズニーランドやディズニーシーはテーマ的なところで、空間的には、修学院離宮、ハドリアヌス、イタリア庭園なども参考にされると、具体的なアイデアが出てくるのではないのでしょうか。現在の平面図を見ていると、フラットでも斜面でも良いようなプランニングになっていると思います。

<事務局>

地形の変化、特に斜面地であることは、当然一番重要なポイントなので、プラス景観を考えた時も、その地形がとても重要になっていると思っています。日本平の場合は特にです。今後景観について検討していく中でも、やはり今ご指摘があったような、例えば3つのテラス的な段にするなども含めて検討していきたいなと思います。

<寒竹委員>

もう一つ良いでしょうか。私は、色々な自治体の総合計画などにも携わっていますが、どこも全体を演繹的に公式作って、一般解を解くようなやり方をしています。それだと、最初のテーマや基本計画はどの計画にも当てはまるような計画になってしまいます。だから、もっと具体的などころを攻めた帰納法的な計画づくりもそろそろやっていかないと、同じような答えしか出ないのかなと思っています。ですから、例えば33haをやっておいて85haを考えるというのではなくて、同時期に85haも考えて、33haをやっていかないと。よく都市計画などでは、名前さえ変えればほとんど全部当てはまってしまうというものばかりなんです。基本構想、基本計画を作っていると概念でしか捉えていけないじゃないですか。有度山じゃなくて山(やま)と言ってしまうと終わりなんです。海(うみ)と言ってしまうと終わり。具体的な固有名詞が入った言葉でつくっていかないと、せっかくの日本平という宝をお持ちなのに普通のどこかの代替地というようなアイテムになってしまうのではないかと思います。

<五十嵐委員長>

88haの話が出ましたが、事務局の方でも頭に置いておいていただきたいと思います。それと同時に、寒竹委員がおっしゃったように、どこにもあるような同じ広場又は施設、植物という話にならないように。「風景美術館」というすごいテーマでやろうとしているのだから、これは大いに腕を振るう場所じゃないかと思います。

<事務局>

検討の中でブランディングという言葉を使っていますが、ブランディングとはテーマを立てるだけではなく、ストーリーがなくてはいけないと考えています。その中で、今おっしゃっていただいた神話、これは結構大きいなと思っています。だから、その辺(ヤマトタケル)を少しストーリー仕立てにするとか、そんなところを考えていきたいなと思っています。

<五十嵐委員長>

やはりそうですね。33haで考えていると、そこに入らない部分の歴史を扱いたいと言いながら残念ですね。僕らが子供の時には、草薙神社の前で拝んでから歩いて日本平を登りました。そのころからヤマトタケルはよく知っていました。委員が言われたように、歴史を考えるのであれば、もしかしたら88haよりもっと周辺をという話になってくるかもしれません。

もう一つ、東照宮がロープウェイで日本平と結ばれていますが、逆に、あの石垣イチゴの方から厳しい千段もあるかという階段を上がって歩くルート、先程どなたかがおっしゃっていましたが、今の時代、ハードなものにチャレンジする。サイクリングの話もそうだと思うのですが、そういうのは利用者から受け入れられる。そんなことまで考えて、少し周辺を踏まえて知恵を出すと、ここでのブランディング戦略が色々出てくるのではないのでしょうか。

<船戸委員>

重なって大変恐縮なんですが、インバウンドとかブランディングの話をしていくと、外向きの話というか、観光の部分が強調されてきて、市民にとって遠い公園になるなと思いました。小さい頃から静岡市民の人たちが、この公園が自分たちの公園であるということを意識するためにも、小学校の頃からこの公園に行くのを学校教育の中で位置づけるとか、市民参加という点においては、重点検討項目のあたりで議論されていましたが、トレッキングとかキャンプとかこの辺の運営側に市民が関わっていくというのも一つの工夫なのかなと思いました。

ということで、外に向かった発信という点においては評価できるかと思いますが、やはりローカルという点においての認知・広報というのは必要なかなと思いました。

<事務局>

ありがとうございました。古くは山頂の近くに青少年自然の家があったり、私が子供の頃は遠足で行ったりしていました。今はそういうのがなくなってしまいましたが、山頂でNPOさんが花壇をやってくださっているご活動の中で、幼稚園の子どもさんとラベンダーの収穫や花摘みをするなど、そんなこともやってくださっていますので、このような取り組みをもっと拡張して、地元の子どもを色々なメニューの中に組み込んでいくというのもこれから運営の中で考えていきたいと思いました。

<五十嵐委員長>

確認ですが、資料の28ページに先程から話題になっている観光消費額単価、宿泊客数をアップしたいと書いてあります。これは、日本平公園の現況ではなく、市全体の話ですね。

<事務局>

そうです。静岡市全体としてこの数値を目標にしています。日本平公園、あるいは日本平エリアでの目標というのが無いので、我々はどこまでどのように公園をつくればいいのか分かりづらい状況です。市全体はこうだけど、では我々（日本平）はこの目標の中でどこを目指せばいいのかということは、今後明確になってくるのかなと思っています。

<五十嵐委員長>

こういうデータは日本平では集めていないのですか。

<事務局>

観光部局が、色々な施設で観光客の皆さんがいくら使っているという統計をとっていて、それをもとに現況値を出しています。日本平エリアについては、3つぐらいの施設の金額をとっているようです。この公園をつくっていく中で、公園の中に何らかの施設ができてきますので、そこでの消費単価も加わってくるのかなと思います。いずれにしても日本平公園単体、あるいは日本平エリアで具体の数字をどう持っていくのかというところは将来的に設定しなければならなのかなと思っています。

<五十嵐委員長>

この基本計画の中で、数字を出すのですか。

<事務局>

ここでは出せないと思います。

冒頭、申しましたように、ある程度公園内で収益を上げていくのか、あるいは地域として費用対効果が上がっていけばいいという考え方でいくのか、その辺はある程度定めたいなとは思いますが、具体的に、この公園でいくらというところは算定できないと思います。

<五十嵐委員長>

市全体の目標に対してプラスになるような公園計画にしたいという参考資料ということで良いですね。

<事務局>

はい。あくまでもこういうところを指標に挙げているということです。

<石山委員>

資料4のアンケート調査が今のお話に関連するのではないかなと思います。WEBアンケートがうまく行われて、これから目標を立てたり推移を見たりしていく元になる重要な調査になると良いなと思いました。

問1でこれまでの訪問経験を聞いていますが、その中で「今回が初めて」という回答は、9%しかいません。つまりあとはリピーターということです。90%以上がリピーターというのはすごく高いと思います。調査方法をしっかりした上で、リピーター率を高くする、特にハードリピーターが多いというのは、やはり消費額に繋がる話でもありますので、リピーターつまり、「日本平公園を愛して足繁く通ってくれる人」のような表現でも良いと思うのですが、そのような方を増やしたいという意図のもと、このようなデータを活用していけると良いと思います。「再来訪意向」や「紹介意向」というのは満足度との相関が高いというのは研究的にも言われていることで、多くの観光地調査では必ず入っています。入っていると、目標設定などにも使いやすくていいのかなと思います。やっぱり直接消費額とか入込客数だけでは、何だかつまらないと思います。

静岡市の観光の研究会にも入らせてもらっていて、昨年度そこでも申し上げたのですが、観光の経済波及効果が大事だという話をするときに、どうしても「入込客数」と「消費額」という話が出ます。でももう一つ重要な項目があって、私たちはその3つを大事にしましょうとよく言っているのですが、3つ目は「域内調達率」を高めていくことです。地場の物を使うとか、地域の方に活躍して頂くとか、その部分を大事にしていくということですが、抜け落ちているのではないかなと思いました。日本平公園というのは、域内調達率を色々な形で高めることができる可能性がありますので、人数や消費額を増やすより、そちらを頑張るやり方もあるのかなと思います。

人数も短期間にたくさん来るのではなく同じ人が何回も来てくれて、消費額もそれに伴って増えていく。また、滞在時間が増えることによって消費額が増えていくみたいな方向性を狙っていく方がいいのかなと思います。ですので、よくある言葉や項目でも、ここではどのように捉えて、どのような時間を過ごしてもらいたいかを丁寧に考えて目標を立てていけば、市の目指すところと矛盾しないような形で日本平らしい目標が設定できるのかなと考えています。

基本計画の改定ですから、平成19年度に策定された元の計画も見せていただいたのですが、特に景観形成計画のところなど、丁寧にまとめられていて良いと思いました。例えば、アプローチ景観とか、視点場も点的・線状・室内からの3種類で考えられていますし、移動の景観シー

クエンスも考えられています。先程寒竹先生が、長細い標高差があるところをテーマで考えていく必要があるとおっしゃられて、私も本当にその通りだと思います。計画を改定すると、どうしても改定したところに目がいてしまいがちだと思うのですが、元々の計画も良いので、今までの計画の中で丁寧に考えてきたところ、これからも大事にしないといけないところの再掲や、それらと新しい機能とをうまく組み合わせるみたいなことをして、もう一度光を当ててあげることが大事なのではないかなと思いました。あわせて視点場は、計画に合わせてちょっと増やしたり減らしたり、多少見直す必要があるように感じました。近景、中景、遠景、それとアプローチ景観、シークエンス、眺望点、そういうのをしっかり考えて、先程、五十嵐委員長からも話が合った「風景美術館」にふさわしい景観整備を徹底する観点から、大事にする必要があると思います。

あと、6月から7月の入り込み客数が少ないとのことのお話がありましたが、これは暑さのせいもあるでしょう。暑さ対策というのは、すべての人に関係しますが、特に子連れの方や高齢の方かを今回重点ターゲットにしていますが、そういった方向けの対策は不可欠です。ミストとか屋内施設とか休む所が現状では不足していると思います。特に北側はそれをしっかり入れていかないと、ターゲットの方々に来ていただき、かつ長い時間居ていただくことは難しいのかなと思います。

<五十嵐委員長>

ありがとうございました。石山委員がおっしゃっていた景観について、過去の報告書でかなり触れています。視点場も当然その中に入っていますが、報告書には「風景美術館」が何かということも書いてある。報告書のそういう資料を付けなかったから、「風景美術館」がどうして生まれたのかというのが分かりにくい。そのところが本当に大切だと思いますので、まとめたものを皆さんにお配りする方がいいと思います。

それと、これはまだ話題になっていませんが、公園センターが計画に位置づけられています。これについては中身もデザインも何も決まっていない。これを最初議論した時には、まさに石山委員がおっしゃったように、日本平に来て、年間3分の1しか富士山が拝めない。その残りの3分の2をどうするかが大きな課題でした。それに対応するアイデアをこの公園センター等に設けたらどうかも課題としてあります。これから皆さんからどのようなアイデアを出していただけるかなのですが、公園センターの位置もそうですが、中身についても風景美術館プラスという話になるのかもしれないけれども、それにふさわしい中身で提案していくということが大事だと思います。今のままでは、人の流れが南部に偏っています。公園センターがこの位置でいいのかどうか。大芝生広場があっても「何だ、広場があるだけか。」と思う人もいます。どこを考えるにしても、「風景美術館という視点で考えたアイデアはこうだ。」というプランをぜひ事務局から委員会に出していただきたいと思います。

<寒竹委員>

風景と景観とは違うんですね。風景というのは、その場所その場所の景を風景と言い、その風土が表れたのが風景です。その風景というのを、ただここに美しい33ha を作って「風景があります」ということではなくて、やはり外とそれが繋がって風景というのですから、「風景美術館」というのであれば、この場所でどういう風景を見せるか、やはり具体的に外とどうこの場所が関係しているのかということまで考えて作っていかれると、この場所を選ばなきゃいけない、そうするとセンター施設はこの辺が一番いいというふうに決まっていくはずで、この辺かなと作っておいて、あとはあちこちでいい風景がありますよというやり方では、うまくいかないのかなと思いま

す。具体的に考えた方が普遍的で良い物ができると思います。

<池谷委員>

「風景美術館」ということで、当然、景観だとか風景を見ていただいてお楽しみいただきたいというような思いで我々もいますが、樹木が障害となって景観が見られない場所が結構あります。今回、静岡市さんが景観の障害になっていた山頂の受水槽を下に下げてください、樹木がなければ駿河湾、それも伊豆半島の先端の石廊崎までご覧いただけるのかなと思いますが、残念ながらそこには樹木が障害として出てきています。ただ、そこは風致地区という法令の規制があって、やみくもに木を切れないという事情もあります。また自然環境保護という面での相反する部分もあります。南側だけではなく、山頂の駐車場からも富士山がご覧いただけない場所があります。そういう所が点在しているという点においては、今後改善する必要があるのかなと思っています。管理のことを含めて申し訳ないですが、その辺を改善していただければお客様にも喜んでいただけるのかなと思います。よろしくお願いいたします。

<五十嵐委員長>

今のお話も非常に大事です。蘇我馬子が飛鳥の里を展望した、飛鳥京の甘樫丘（あまかしのおか）という有名な場所があります。そこも周辺の木が景観の支障となっていたため、剪定しました。そういう場所もありますから、理由がつけばできると思います。あそこは風致地区よりももっと厳しいところですから。

<寒竹委員>

大自然ではなく、里山の一部ですから。人間の文化が入っている風景ですから、原生林を残す場所と、庭として使う場所もある。

<五十嵐委員長>

その他意見等ないようでしたら、進行を事務局にお返しします。

(3) 閉会挨拶～(4) 閉会(省略)

【議事録署名人】

委員長

委員
